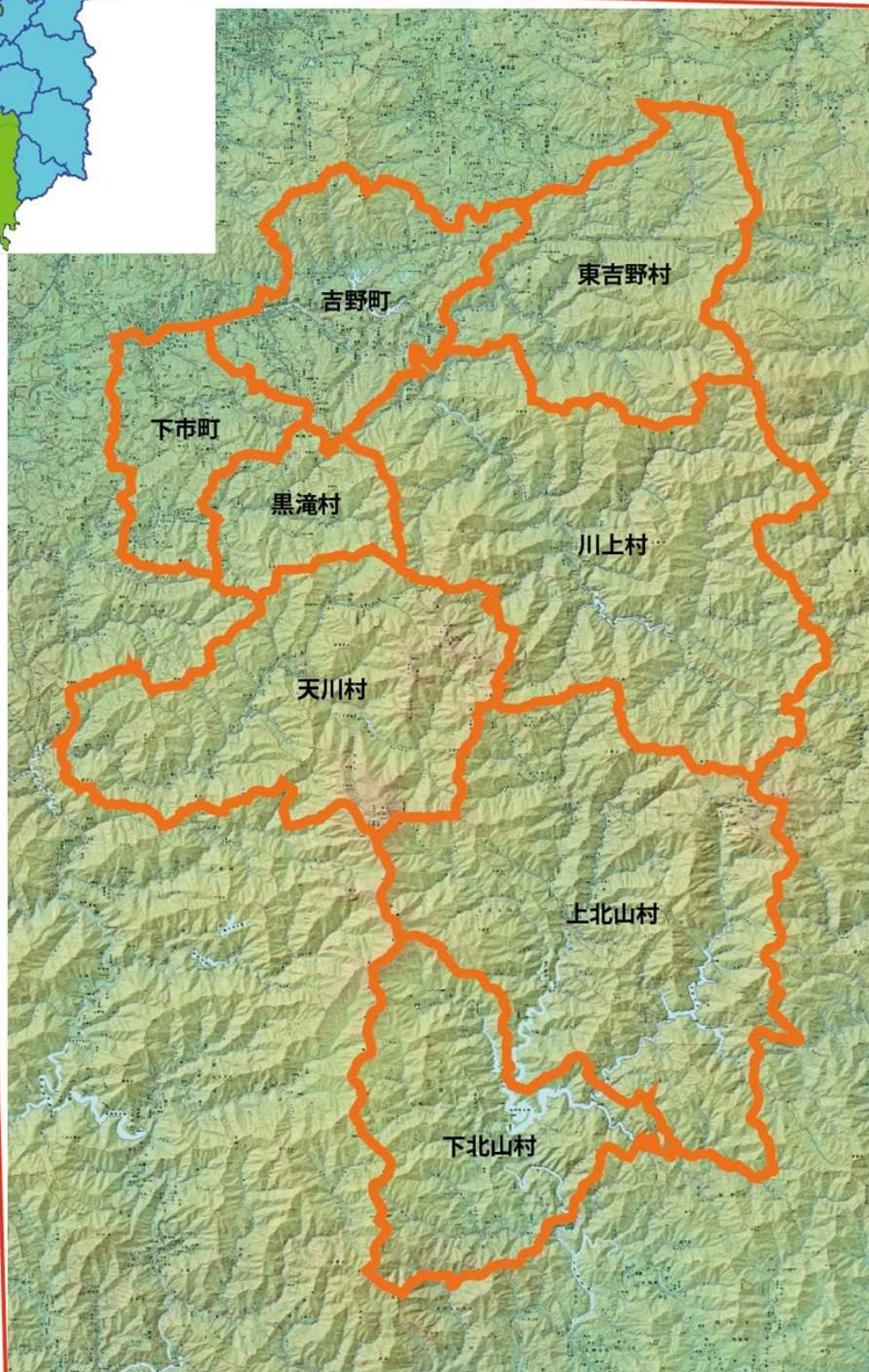


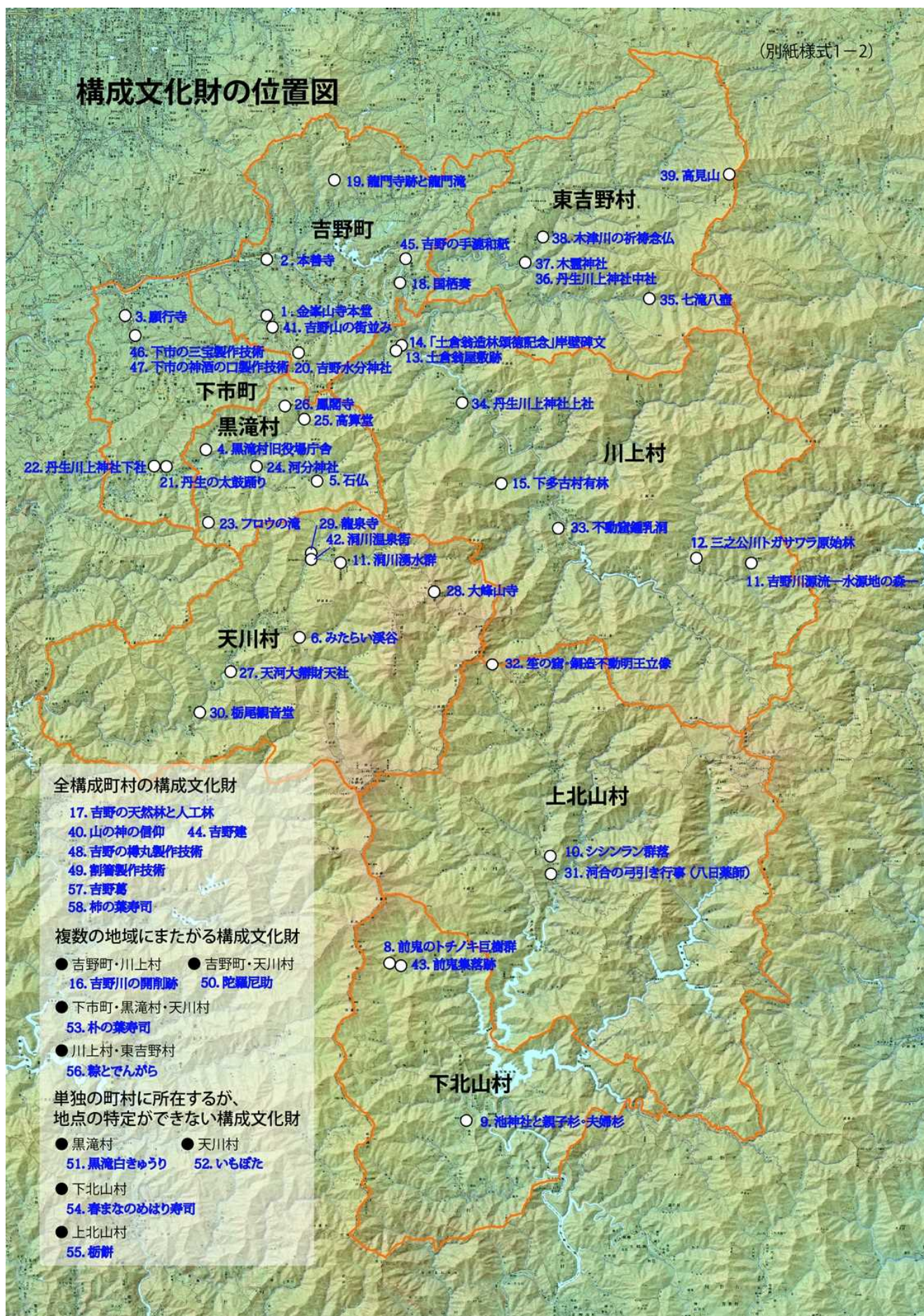
① 申請者	◎吉野町、下市町、黒滝村、天川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村	② タイプ	地域型 / シリアル型 A    B    C    D    E
③ タイトル			
<p style="text-align: center;">森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～</p>			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>我が国造林発祥の地である奈良県吉野地域には、約 500 年にわたり培われた造林技術により育まれた重厚な深緑の絨毯の如き日本一の人工の森と、森に暮らす人々が神仏坐す地として守り続ける野趣溢れる天然の森が、訪れる人々を圧倒する景観で迎えてくれる。</p> <p>ここに暮らす人々が、それらの森を長きに亘って育み、育まれる中で作り上げた食や暮らしの文化が今に伝わり、訪れる者はそれを体感して楽しむことができる。</p>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	奈良県吉野町教育委員会事務局 主幹 池田 淳		
電 話	0 7 4 6 - 3 2 - 0 1 9 0	FAX	0 7 4 6 - 3 2 - 5 6 8 9
E-mail	kiyoshi_ikeda@town.yoshino.lg.jp		
住 所	〒 6 3 9 - 3 1 1 1 奈良県吉野郡吉野町大字上市 1 3 3 番地		

奈良県





## 構成文化財の位置図





## ストーリー

## ◆天然の森から人工の森へ

奈良県南部の吉野地域に古代から広がっていた豊かな天然の森は、我が国屈指の多雨地帯であり、湿潤であるために多様な植物が密生していた。それ故に、そこで育つ木々が太径になるには他の地域より時間を要して、細やかな年輪と強靱な性質を持っていた。中世までは、そのような森の木を伐採することは、山や森に坐す神仏を祭祀する金峯山寺(きんぷせんじ)などの寺社を造営する必要に迫られた時に限られ、伐採しても自然の回復を待つことが常であった。

戦国期に至って、この地域の森と暮らしに大きな変化が訪れた。近畿各地で城郭や寺社の建築が増え、その用材として吉野の森林資源が注目されるようになった。それを効率的に運び出すために、蛇行する河川の岸壁を開削することで河川の流路改修が進められた。その結果、吉野の天然林は次々と伐採され、筏に組まれて運び出されていった。

このような流れの中で、伐採可能な天然林が徐々に減少したため、需要に応えるためには植林の必要に迫られるようになり、天然林が伐採されたあとに、建築材としてより価値の高い杉や桧が植えられるようになった。室町後期、川上村で初めて植林が行われたことが最古の記録であり、現に樹齢約400年の植林の森が川上村下多古(しもたこ)地区にある。

江戸中期になると、江戸などの大都市で灘や伊丹の酒の需要が高まり、その輸送用の樽の材料として吉野地方の木材の需要が増え、海上輸送をはじめとする長期の輸送にも耐えうるよう更に品質を上げるために、植林、育林方法に工夫がなされるようになった。植林は、他の地域では1ha当たり3千本から4千本の植え付けが一般的だが、吉野地域では1ha当たり1万本の苗を植え付ける「密植(みつしよく)」という方法がとられた。その後は、「多間伐(たかんばつ)」という方法がとられ、成長が悪い木を除伐しながら、木の生長に合わせて間伐を何度も繰り返す作業を行う。そして、一般的には40年から50年とされている最終伐期を、吉野では80年から100年以上に引き延ばす「長伐期(ちようばつき)」施業という独自の技術を創造した。その結果、木の外回りが真ん丸に近い真円で、まっすぐに育った木々は年輪幅がほぼ一定で密であるために強度が強く、色艶や香りの良い、どの地域の材よりも美しい杉桧の「吉野材」を生み出すこととなった。この優れた林業技術によって、この地域の山々には、等間隔に、且つ真っ直ぐに立ち並ぶ見事な人工の美林が作りあげられることとなった。

## ◆森に生きた人々のこころの証

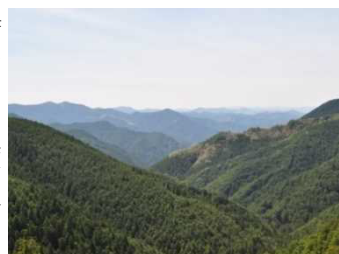
しかし、吉野の人々は全ての山々を人工林に変えることはしなかった。人々は、山々を神仏と仰ぎ、その頂は神仏の頭であり、稜線伝いの道は神仏を巡る修行の道として、その周辺の天然の森には手を着けることなく守り続けた。古代から人々は、神仏と仰ぐ森や山、そこから流れ出る水などの依り代として祠を設けて祀った。中には、平安時代以降、皇室や摂関家など貴頭の尊崇を受け



金峯山寺本堂



下多古村有林



吉野の天然林と人工林



山の神の信仰



ることとなった吉野水分神社<sup>(よしのみくまりじんじや)</sup>や丹生川上神社<sup>(にうかわかみじんじや)</sup>、金峯山寺などように豪壮な寺社に発展したところもある。

また、人工林は、山の暮らしに富をもたらしてくれる有難い存在として、人々は山の神と仰ぎ、ささやかな祠を設けて、今もその祭事が各所で執り行われている。

#### ◆森の資源を活かした生活文化

吉野地方の多くは、急峻な地形が多く、宅地や田畑となる平地や緩斜面は極めて少なく、それ故に、石垣を積んで宅地や田畑を造り、あるいはまた、谷側を背にして斜面に張り付くような「吉野建<sup>(よしの建て)</sup>」と呼ばれる建築様式が形成された。

吉野町や下市町を除く村部には大規模な集落は少なく、緩斜面を削平した宅地に建つ民家や吉野建の民家が集まる小集落が谷間や山の中腹に点在し、大抵は山仕事を生業としてきた。しかし、中には山や森などを神仏と仰ぐ修験者が修行する前進基地として、その山の入り口に当たる稜線伝いの吉野町吉野山地区や、河川伝いの狭隘な地域である天川村洞川<sup>(どろがわ)</sup>地区のように旅館や山修行の手伝いを生業とする民家が混在する集落も形成された。

これらの集落での生活に必要な道具は、自ずと森の木々を利用した物が多い。下市町の三宝<sup>(さんぼう)</sup>などに代表される曲物<sup>(まげもの)</sup>が室町中期から作られたほか、江戸中期からは全国に先駆けて、黒滝村などでは樽丸<sup>(たるまる)</sup>という樽の側板材が盛んに生産され、全国生産量の殆どを明治期に至るまで吉野地方が担っていた。明治初期からは、樽丸生産や製材の過程で出る端材を利用した割箸作りが下市町で考案され、吉野町や下市町などで割箸が盛んに生産されるようになり、これもまた全国生産量の殆どを担っていた。

傾斜地や谷間に暮らすこの地域の人々は、米作に適さない土地柄であるが故に、森の恵みに食材を求め、あるいは環境に合う作物や加工食品をつくり、食生活を充たしてきた。また、保存効果や殺菌効果が高いとされる柿や朴<sup>(ほう)</sup>の葉などを利用した寿司を作る文化が形成されて、吉野川に沿った地域では柿の葉寿司、黒滝村・天川村・下市町などでは朴の葉寿司が今に伝わっている。下北山村や上北山村などは栃餅に代表される森の恵みに栄養源を求めることもあった。また、吉野地域で生産された葛は、「吉野葛」として料理に利用されるほか、葛湯、葛餅、葛菓子、葛きりなどの材料として全国にその名が知られる。

造林発祥の地“吉野”で車を走らせれば、人工の常緑の森が、重厚で一糸乱れぬ装いで広がるかと思えば、天然の森の色形ともに変化に富む景観が現れる。この地域の二つの壮大な美林連なる景観の中で、人々はその造林技術と育み育まれた森への祈りを今に伝え、訪れる者はその森とともに暮らす生活を実感することができる。



吉野建



吉野の樽丸製作技術



柿の葉寿司





ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※ 1)	指定等の状況 (※ 2)	ストーリーの中の位置づけ (※ 3)	文化財の所在地 (※ 4)
1	金峯山寺本堂 <small>(きんぷせんじほんどう)</small>	国宝 (建造物)	修験道の根本道場であり、幾度かの被災に際しても吉野の山地で育った材木が利用された。堂内の梨・躑躅 <small>(つづじ)</small> の名木と伝える天然木の柱群は、吉野の天然林資源の豊かさの象徴である。	吉野町
2	本善寺 <small>(ほんぜんじ)</small>	国登録 (建造物)	真宗教団が吉野町飯貝 <small>(いひがわい)</small> に建立した寺院。 真宗教団は、石山本願寺 <small>(いしやまほんがんじ)</small> 等の大寺院建立の建築材として吉野の材木を利用するため、吉野の森林資源の搬出の拠点であった当地に本善寺を建立した。真宗教団が開発した筏の流下ルートが、江戸時代の吉野材搬出のルートの原型となった。	吉野町
3	願行寺 <small>(がんぎょうじ)</small>	町指定 (建造物)	下市御坊 <small>(しもいちごぼう)</small> と呼ばれた真宗寺院で、室町時代には、吉野林業の担い手であった杣人 <small>(そまびと)</small> たちの心の拠り所であり、同寺の周辺には木材加工技術を持った人々が集住した。	下市町
4	黒滝村旧役場庁舎 <small>(くろたきむらきゅうやくばちやうしゃ)</small>	県指定 (建造物)	明治末、黒滝郷材木組合 <small>(くろたきごうざいもくくみあい)</small> の事務所として建てられた洋風木造建築。当時の林業家たちの活動の場を知る上で貴重な建造物。現在は、樽丸 <small>(たるまる)</small> づくりの道具(県指定)が展示され、庭には和歌山市にあった黒滝材の貯木場の記念碑が移設されている。	黒滝村
5	石仏 <small>(いしぼとけ)</small>	未指定	黒滝川を流下する木材は、ここで筏に組み上げられた。付近に、水の安全を祈ったという石仏が祀られ、山で暮らす人々の素朴な信仰を見ることができる。	黒滝村
6	みたらい溪谷	未指定	みたらい溪谷は、山上川 <small>(さんじやうがわ)</small> が川迫川 <small>(かうせがわ)</small> に合流する場所に位置し、特に狭まった山の裾の大岩壁を大小の滝が流れ落ちる吉野に残された代表的な自然景観である。	天川村
7	洞川湧水群 <small>(どろがわゆすいぐん)</small>	未指定	洞川湧水群は、ごろごろ水・泉の森・神泉洞 <small>(しんせんどう)</small> という3つの湧水からなり、花崗岩と石灰岩の地層から湧き出る湧水は、適度なミネラル分を含み、修験者や山で暮らす人々にとって今も	天川村

			無くてはならない水源となっている。	
8	前鬼 <small>(ぜんき)</small> のトチノキ巨樹群	県天然記念物	前鬼宿坊 <small>(しゆくぼう)</small> から太古の辻 <small>(たいこのつじ)</small> 方面へ少し登った所に、トチの巨木があり、中には幹回り 10m を超すものもある。このトチの木の実は栃餅 <small>(とちもち)</small> の材料として重宝され、山里の伝統食として今も受け継がれている。	下北山村
9	池神社 <small>(いけじんじや)</small> と親子杉 <small>(おやこすぎ)</small> ・夫婦杉 <small>(めおとすぎ)</small>	村天然記念物	村内で一番高所にある池峰 <small>(いけみね)</small> 集落に役行者 <small>(えんのぎょうじゃ)</small> が開いたとする池神社がある。この神社は、正面にある明神池 <small>(みょうじんいけ)</small> をご神体とし、親子杉・夫婦杉などの杉の大木に囲まれた場所は、山で暮らした人々の信仰の形を今に伝えている。	下北山村
10	シシンラン群落	国天然記念物	シシンランは、本州南部暖地産の着生常緑植物でツクバネ櫨に着生するイワタバコ科の植物。7 月頃に直径 3 c m 程の可憐な白い花を咲かせ、上北山村の水分神社（創建 1450 年代）にあるシシンランが自生の最北限である。レッドリストにも掲載される希少な植物で、絶滅危惧種に指定されている小型の蝶「ゴイシツバネシジミ」の幼虫の餌になり、吉野の自然の豊かさをあらわしている。	上北山村
11	吉野川源流－水源地の森	未指定	吉野林業にかかせない豊かな雨によって育まれた吉野川最源流部に位置する原生林。吉野を代表する天然林の一つで、村によって保存されている。	川上村
12	三之公川 <small>(さんのこがわ)</small> トガサワラ原始林	国天然記念物	氷河期に吉野で繁茂した針葉樹の原始林。吉野の自然が多様な植生を支えてきたことを物語る天然林。	川上村
13	土倉翁 <small>(どぐらおう)</small> 屋敷跡	村指定 (歴史記念物)	土倉式造林法を確立した吉野林業の父土倉庄三郎 <small>(どぐらしょうざぶろう)</small> の屋敷跡。功績を称え銅像が建立されている。	川上村
14	「土倉翁造林頌徳記念 <small>(どぐらおうぞうりんしょうとくきねん)</small> 」岸壁碑文	村指定 (歴史記念物)	土倉庄三郎の功績を称え、大滝の岸壁に刻まれた碑文。	川上村
15	下多古 <small>(しもたこ)</small> 村有林	未指定	日本最古の人工林。樹齢が 250～390 年生の杉、桧が育てられている。500 年の歴史を誇る吉野林業の「歴史の証人」として保存されている。	川上村
16	吉野川の開削跡 <small>(かいさくあと)</small>	未指定	激しい蛇行を繰り返す吉野川上流域では、岩場を開削した跡が随所に残るが、大滝と宮滝は特に蛇行が激しく、この開削によって筏の流下が容易となり、吉野の森林資源の開発が加速した。	吉野町 川上村



1 7	吉野の天然林と人工林	未指定	吉野の山地の各地には、古くからこの地で生育した見事な天然林と、吉野林業による造林により生育した人工美林が発達し、それらの美林を雄大なパノラマとして望み見ることができる眺望点がいくつも存在する。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
1 8	国栖奏 <small>(くすそう)</small>	県無形民俗	応神朝に起源をもつとされる神事。吉野に伝えられた古風な神事の形態をいまに伝えている。	吉野町
1 9	龍門寺跡 <small>(りゅうもんじあと)</small> と龍門滝 <small>(りゅうもんたき)</small>	県史跡 (龍門寺跡のみ)	龍門滝周辺には、古代から吉野の自然を崇拝し、修行の場とした修行者たちが修行する場であり、後にその修行の場に寺が作られたのが龍門寺である。	吉野町
2 0	吉野水分神社 <small>(よしのみくまりじんじや)</small>	重文 (建造物)	吉野では天然林・人工林ともに豊かな水によって支えられていた。この豊かな水の配分に関わり古来より崇敬された神社である。	吉野町
2 1	丹生 <small>(にう)</small> の太鼓踊り <small>(たいこどり)</small>	県無形民俗	豊かな稔を願って踊られた雨乞いのための踊り。吉野に暮らす人々の素朴な信仰に裏付けられた祭礼。	下市町
2 2	丹生川上神社下社 <small>(にうかわかみじんじやしもしや)</small>	未指定	日本最古の水神を祀る神社。雨乞いには黒馬を、晴れを祈る時は白馬をこの社に献上したという。絵馬発祥の神社としても有名で、森を育むために必要な水を祀った神社として崇敬された。	下市町
2 3	フロウの滝	未指定	江戸初期の禅僧・盤珪 <small>(ばんけい)</small> の修行の地と伝える。彼は、この滝の畔で当地に留まり修行を重ねたという。	黒滝村
2 4	河分神社 <small>(かわわけじんじや)</small>	未指定	吉野の暮らし、森を育てるためには水が不可欠であり、その水を分ける神は特別な信仰を集めた。河分神社は二つの川の分岐に鎮座する神であり、長いあいだ雨乞 <small>(あまご)</small> いや雨祝 <small>(あまいわ)</small> いの神事がおこなわれていた。	黒滝村
2 5	高算堂 <small>(こうさんどう)</small>	未指定	吉野を代表する祭礼の一つである吉野山の会式(花供懺法 <small>はなくせんぽう</small> )をはじめた高算上人の墓と伝え、この地の人々から信仰された。	黒滝村
2 6	鳳閣寺 <small>(ほうかくじ)</small>	未指定	吉野の修験道の道場として建てられた寺院で、旧境内には修験道を再興した理源大師 <small>(りげんだいし)</small> の廟塔(国重文)があり、本堂には山伏姿の理源大師像(村指定)が祀られている。	黒滝村
2 7	天河大辯財天社 <small>(てんかわだいべんざいてんしや)</small>	未指定	神社は、日本三大弁天の筆頭とされ、水を祀る神でもあり、音楽や芸能の神様としても有名である。	天川村

28	大峰山寺 <small>(おおみねさんじ)</small>	重文 (建造物)	金剛蔵王大権現 <small>(こんごうざおうだいこんげん)</small> を本尊とする、国重要文化財の寺院。天武天皇元 (672) 年、役行者が苦行ののちに金剛蔵王大権現を感得し、蔵王堂 <small>(ざおうどう)</small> を建立したのに始まると伝える。修験道の根本道場であり、我が国の中でも最高所級の場所に所在する重要文化財。	天川村
29	龍泉寺 <small>(りゅうせんじ)</small>	未指定	1300 年の昔、大峯の山々を行場として修行された役行者が、こんこんと湧き出る泉を発見し、これを龍の口と名付けて、そのほとりに小堂を建て、八大龍王をお祀りされたと伝え、これが龍泉寺の始まりである。 寺の裏手の森は、龍泉寺の自然林として県天然記念物に指定されており、吉野の豊かな自然を寺域に持つ寺院である。	天川村
30	栃尾観音堂 <small>(とちおかのんだう)</small>	未指定	江戸時代、放浪の僧円空が当地で彫った聖観音菩薩立像 <small>(しょうかんのんぼさつりゅうざう)</small> 、大辨財天女立像 <small>(だいべんさいてんにょりゅうざう)</small> 、金剛童子像、護法神像 <small>(ごほうしんざう)</small> の四体を安置する観音堂。 栃尾の集落に暮らす人々に信仰をされた小堂。	天川村
31	河合 <small>(かわい)</small> の弓引き <small>(ゆみひき)</small> 行事 (八日薬師 <small>ようかやくし</small> )	県無形民俗	この行事の発祥は、すべて口伝により受け継がれてきており、その時期などはさだかではない。山で暮らす民の唯一の生活の糧である木材を出す作業は非常に危険であり、しばしば命をおとすことがあったため、仕事の安全と一年の暮らしの安寧を願い、正月の初めに一年の厄を的に見立てそれを鎮めるという意味でこの行事が伝わったと推察される。 行事の式次第は、古式にのっとり行われており、山で住まいする人たちの歴史と思い入れを感じさせる。	上北山村
32	笙の窟 <small>(しょうのいわや)</small> ・銅造不動明王立像	史跡 県指定 (彫刻)	笙の窟は、大峯山脈の主稜を構成する大普賢岳 <small>(だいふげんだけ)</small> 東方の日本岳の中腹南面岩壁に開口する自然窟であり、「大峯山行所」の「七十五廬 <small>(なびき)</small> 」のうち、「六十二廬」の行場霊地である。樹齢約 500 年の自然林に囲まれており、冬籠の行場で千日籠り修行が行われていたとされる。北野天神縁起絵巻 <small>(きたのてんじんえんぎえまき)</small> による日蔵上人 <small>(にちざう)</small> の冥界遍	上北山村



			歴と弁覚上人(べんかく)の勧進(1232年)による銘の金銅不動明王像が祀られていた。 吉野で展開した修験道の行場として知られている。	
3 3	不動窟鍾乳洞(ふどうくつしゅうにゅうどう)	県天然記念物	大峰登山の裏行場としての名が高い。 洞窟内には不動明王が祀られている。	川上村
3 4	丹生川上神社上社(にうかわかみじんじゃかみしゃ)	未指定	吉野地方の豊富な雨は林業を育んできた。水の神様である龍神をお祀りする神社。祈雨(きう)、止雨(しう)のお祈りに黒馬や白馬が奉納された。絵馬の発祥の地ともいわれる。	川上村
3 5	七滝八壺(ななたきやつぱ)	未指定	水が涸れることなく滾々と流れ落ちる滝で、こうした水が豊かな吉野の森を育んだ。	東吉野村
3 6	丹生川上神社中社(にうかわかみじんじゃなかしゃ)	村指定 (建造物)	水神、罔象女神(みずはのめのかみ)をご祭神とする神社。灌漑用水や井戸を司る「罔象(みずはのめの)」の文字は水の精を指し、罔象女神は日本の代表的水神でもある。	東吉野村
3 7	木霊神社(こだまじんじゃ)	未指定	丹生川上神社中社境内にある神社。祭神の五十猛命(いそたけるのみこと)は林業の神として信仰されている	東吉野村
3 8	木津川(こつがわ)の祈祷念仏(きとうねんぶつ)	県無形民俗	村落の平穏無事を祈る踊り念仏。毎年二百十日(にひゃくとおか)の前祈祷(まえきとう)として行われ、山で暮らした人々の古風な祭礼芸能。	東吉野村
3 9	高見山(たかみさん)	未指定	台高(たいこう)山脈の北端、奈良県と三重県境に位置する高見山(1249m)は、古くから信仰の対象となった秀麗な山。山頂の「高角神社(たかすみ)」には、祭神として「瀬織津姫命(せおりつひめのみこと)」も祀られ、神武天皇東征の先導をつとめたという「八咫鳥建津命(やたがらすたけつぬみのみこと)」も祀られ、古くから地元の人たちから尊崇されている。	東吉野村
4 0	山の神の信仰	未指定	吉野の山の神は、地域毎に多様な形態があるが、構成町村のほぼ全地域に祀られている。 特色のある供物としては、削り掛けなどの作り物、山の道具のミニチュアなどがある。また、山の神がイノコや弁天信仰と習合している地域もある。 山に生きた人々にとって、山の神は最も身近な神であり、そこには素朴な山と森への信仰が息づいている。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
4 1	吉野山の街並み	未指定	吉野山の街並みは、尾根筋に道が作られ、その両側に吉野建(よしのだて)の民家・	吉野町

			商家・旅館・寺社が陸続と続いている。吉野に住む人々にとっては、経済活動の拠点となり、山伏など大峯で修行する人々にとっては、奥駈 <small>(おくがけ)</small> 修行の拠点となった。	
4 2	洞川 <small>(どろがわ)</small> 温泉街	未指定	修験道の大峯山内一の行場とされる龍泉寺を中心に、大峯信仰の登山基地として栄えた洞川温泉には、たくさんの旅館・土産物店・お食事処が軒をつらね温泉街を形作り、修験道の修行の拠点でもあった。	天川村
4 3	前鬼集落跡 <small>(ぜんきしゅうらくあと)</small>	未指定	役行者に従えていた前鬼 <small>(ぜんき)</small> ・後鬼 <small>(ごき)</small> の子どもたちが住んだといわれる前鬼という集落は、明治半ばまで彼らの子孫による五つの宿坊があった。石垣などによって平坦地を造成した景観は、吉野の山地で営まれた集落の姿を伝えている。	下北山村
4 4	吉野建 <small>(よしのだて)</small>	未指定	山地で急傾斜地が多い吉野地域で家屋を建てるために発達した建築様式。地階を持つ懸造の一種で、吉野の山村の独特な景観となっている。道に面する一階は、商業空間などの公的な機能を備え、地階は家族専用の空間として利用している。また、基礎は石垣段状積みとなっている場合が多い。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
4 5	吉野の手漉 <small>(てすき)</small> 和紙	未指定	国栖地区では、和紙を漉 <small>(す)</small> く職人が多く集住し、様々な和紙が漉かれていた。現在でも表具用手漉和紙や漆漉紙 <small>(うるしごしがみ)</small> が生産され、吉野の代表的な伝統工芸である。	吉野町
4 6	下市 <small>(しもいち)</small> の三宝 <small>(さんぼう)</small> 製作技術	未指定	吉野下市の里に受け継がれる技巧の矜持、伝統工芸三宝は、吉野地域で発達した曲物 <small>(まげもの)</small> の技術を活かして作られている。南北朝時代、天皇への献上物の器として使用されたのが始まりと言われており、吉野桧の無垢な風合いが悠々の技巧を際立たせている。三宝の名前の由来は、胴 <small>(たい)</small> の三方向に穴が開いているところからつけられたと言われている。現在下市町で製作される三宝は、国内シェアの 90%を占めている。	下市町

4 7	下市 <sup>(しもいち)</sup> の神酒の口 <sup>(みきのくち)</sup> 製作技術	未指定	神酒の口は神具の一種で、曲げ物の製作技術によって支えられる工芸品で、神棚にそなえる神酒徳利の口に挿して装飾される。「粘り、光沢、香り」と三拍子そろった吉野桧の背板を選び、表面に溝を彫り、編み目のように組み合わせで作られる。その形は、上部が「炎」で下部が「水玉」である。炎は「風」を呼びおこすといわれ、人間の生活の原点である「火と水」を象って構成されている。	下市町
4 8	吉野の樽丸 <sup>(たるまる)</sup> 製作技術	国無形民俗	酒樽の側板の材料となるクレと呼ばれる杉板を、マルワという竹の輪に詰め込む技術。江戸時代中期に灘や伊丹の酒を詰める酒樽の側板とするために始まったとされる。 吉野で林産加工技術として発達し、全国各地の杉の植林地へ技術が伝播するとともに、その端材を利用した割箸製作技術も派生させた。日本の林産加工技術史上最も貴重な事例の一つ。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
4 9	割箸 <sup>(わりばし)</sup> 製作技術	未指定	割箸製作技術は、吉野の樽丸製作技術から派生した製作技術。樽丸では使えない端材を余すところなく使用するために割箸生産が考案された。現在でも杉桧で良質の割箸【種類：小判・元禄・天削 <sup>(てんそけ)</sup> ・利休・卵中 <sup>(らんちゅう)</sup> 】が生産されている。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
5 0	陀羅尼助 <sup>(だらにすけ)</sup>	未指定	役行者が山中で修行する山伏のために、吉野の薬草から作ったとされる和薬。キハダを主成分とし、現在も地元で生産され、下痢止め・胃腸薬として用いられている。	吉野町 天川村
5 1	黒滝白きゅうり	未指定	黒滝白きゅうりは、黒滝の自然で育つ野菜。全体が白くえぐみがないのが特徴で、通常の青きゅうりと比べて太くて短く、黒滝でなければ生育しないといわれる。現在まで種子を受け継ぎ村内各家庭で生産されている。コリコリ感のある食感で昔から漬物にして村民に親しまれており、林業が盛んであった頃には、山の作業場で、アサチャとして粥とともに黒滝白きゅうりの漬物を食べる習慣があった。	黒滝村
5 2	いもぼた	未指定	天川で昔から伝わる郷土料理。米と細かく切ったジャガイモを炊いて手の平大に握り、表面を焼いた料理。山間部	天川村

			で寒冷な気候のため、米が育ちにくいなか、保存食のジャガイモを利用したおやつ料理として各家庭で受け継がれている。	
5 3	朴 <sup>(ほう)</sup> の葉寿司	未指定	朴の葉寿司は、旧 5 月の節句 (6 月 5 日) などの夏の祭事に、握った飯の上に生鯖の切り身を載せ、これを朴の葉で包んだ寿司。弁当に供せられることもあった。	下市町 黒滝村 天川村 東吉野村
5 4	春まなのめはり寿司	未指定	春まなは、下北山村の気候でしか栽培できない野菜と言われ、古くから村内で栽培されてきた。長期間の泊り山での仕事の時には、春まなの漬物樽を持ってあがり、山小屋で春まなの目はり寿司を作って食べた。	下北山村
5 5	栃餅 <sup>(とちもち)</sup>	未指定	上北山村の代表的な特産品。木灰汁で栃の実の灰汁抜きをし、手間暇かけて作っている。現在では、灰汁抜きをする際に石灰などを混ぜて灰汁抜きをするところもあるが、上北山村の栃餅は純粋な木灰を使用している。また、砂糖・塩なども入れておらず、まざりけなしの天然の味で、吉野の山地を代表する餅。	上北山村
5 6	粽 <sup>(ちまき)</sup> とでんがら	未指定	端午の節句の時に、子孫繁栄や子どもたちの無事な成長を願って、粽 <sup>(ちまき)</sup> とでんがらが作られる。粽はアセの葉などで包み、でんがらは朴の葉で包んだ。粽とでんがらは、男女のシンボルを象ったとも伝えられている。	川上村 東吉野村
5 7	吉野葛 <sup>(よしのくず)</sup>	未指定	葛の根を精製して作られる葛粉の呼称。古くは修験者の食糧だったものを、村人が自家製したものを売ったのが始まりとされる。 デンプン質が葛の根に集まる厳寒期に葛根を掘り、砕いて桶に入れ、葛の繊維を取り除きデンプンを沈殿させる。これを何度も繰り返すことでデンプンがさらされ、上質のデンプンが得られる。それを天日で数日、屋内で一か月ほど乾燥させて製品となる。 古くは救荒作物としても食されたが、次第に吉野の名産品とされ、吉野葛と呼ばれるようになった。 吉野葛は、雪のように白く曝されたものが上質とされ、葛菓子などの素材として珍重されている。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村

5 8	柿の葉寿司	未指定	吉野川流域を代表する寿司。 塩鯖を三枚におろし、薄くそいだ切り身を一口大に握った酢飯に乗せて、柿の葉で包んで押しをかけた寿司。近年では鮭も用いられることがある。海がない吉野では、熊野から運ばれた塩鯖をもちい、柿の葉は、渋柿のものが良いといわれている。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
-----	-------	-----	--	------------------------------------

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。



## 構成文化財の写真一覧

1. 金峯山寺本堂



2. 本善寺



3. 願行寺



4. 黒滝村旧役場庁舎



5. 石仏



6. みたらい溪谷





7. 洞川湧水群



8. 前鬼のトチノキ巨樹群



9. 池神社と親子杉・夫婦杉



10. シシンラン群落



11. 吉野川源流一水源地の森



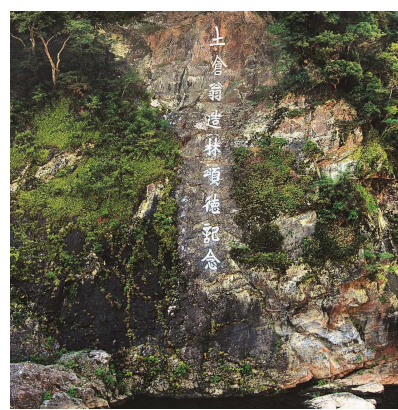
12. 三之公川トガサワラ原始林



13. 土倉翁屋敷跡



14. 「土倉翁造林頌徳記念」崖壁碑文





15. 下多古村有林



16. 吉野川の開削跡



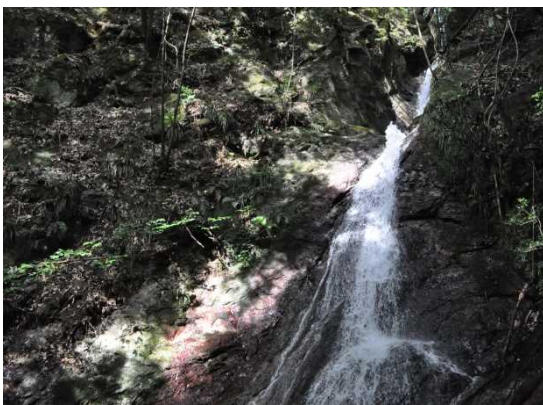
17. 吉野の天然林と人工林



18. 国栖奏



19. 龍門寺跡と龍門滝



20. 吉野水分神社



21. 丹生の太鼓踊り



22. 丹生川上神社下社





23. フロウの滝



24. 河分神社



25. 高算堂



26. 鳳閣寺



27. 天河大辯財天社



28. 大峰山寺



29. 龍泉寺



30. 枳尾観音堂





31. 河合の弓引き行事（八日薬師）



32. 笙の窟・銅造不動明王立像



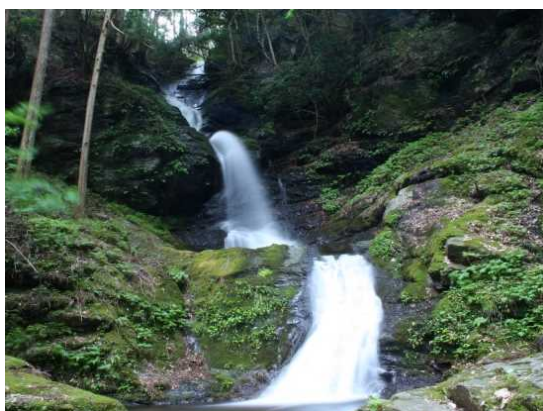
33. 不動窟鍾乳洞



34. 丹生川上神社上社



35. 七滝八壺



36. 丹生川上神社中社



37. 木霊神社



38. 木津川の祈祷念仏





39. 高見山



40. 山の神の信仰



41. 吉野山の街並み



42. 洞川温泉街



43. 前鬼集落跡



44. 吉野建



45. 吉野の手漉和紙



46. 下市の三宝製作技術





47. 下市の神酒の口製作技術



48. 吉野の樽丸製作技術



49. 割箸製作技術



50. 陀羅尼助



51. 黒滝白きゅうり



52. いもぼた



53. 朴の葉寿司



54. 春まなのめはり寿司



55. 枳餅



56. 粽とでんがら



57. 吉野葛



58. 柿の葉寿司

